

第3 問題作成部会の見解

地 理 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア 地球儀や地図からとらえる現代世界」、「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」の「ア 日常生活と結び付いた地図」、「イ 自然環境と防災」に関する大問である。地図や資料等から諸地域の自然環境や自然災害について、人間と環境との相互依存関係に着目して考察させることを意図している。問1は地形図の読み取りにより噴火による地形変化を多面的に考察する力を、問2はGISによる空間分析に適切なデータを選ぶ力を、問3は新旧の地形図比較による土地利用の変遷を考察する力を、問4は植生活性度を指標として景観の季節変化を思考する力を、問5は気象衛星画像の判読による自然災害と防災を関連付けて考察する力を、問6は発災時の状況に応じた避難行動を、ハザードマップを参照して思考する力を問うた。題材は多岐にわたっているが、学習成果を活用して地理的な情報と思考力を動員して検討する必要がある設問としている。正答率は問4で高く、問2で低かったが、第1問全体の平均得点率としては「地理A」全体の得点率とほぼ同じであった。

第2問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。場面設定型として、家畜を事例に「世界の生活・文化はどのように形成されるのか」を主題とした探究課題を設定した。問1は世界における生活・文化の地域性を家畜の飼育分布から大観的に考察する。問2は家畜の偏在理由を自然環境としての気候と関わらせ、問3は社会環境としての経済との関係を、問4は社会環境としての宗教との関係を考察する。さらに問5は「住」や暮らし全般に視野を広げ、家畜と人間との多様な関わりが生み出してきた生活・文化へと探究を深める。以上を総括し、問6は時事問題をふまえた「現代社会における変化」について、課題と展望を考察させた。おおむね標準的な正答率で、識別力も十分に有していた。

第3問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。「アフリカの自然環境と生活・文化」をテーマに、アフリカの自然環境、人間活動及び課題について、主題図や統計図表などの資料から、多角的に地域的特色を見出す問題構成としている。問1と問2は、アフリカの自然環境の基盤である地形や気候について問うた。問3と問4は、人間活動について、幾つかの国・地域の言語・宗教や、産業構造について問うた。問5と問6は、都市・人口や通信インフラを題材として、アフリカ各地の課題や発展について問うた。アフリカ地誌についての問題を解く過程で

様々な形式のデータを読み取り、それらと知識を組み合わせることで、アフリカ各地域の自然環境、生活・文化の特徴を考察させるように工夫した。大問全体の平均得点率は標準的であった。小問の正答率は問6で高く、問1と問2は低かった。その他の小問では、識別力が高く、難易度もおおむね標準的であった。

第4問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア 地球儀や地図からとらえる現代世界」及び「ウ 地球的課題の地理的考察」に関する大問である。世界の結びつきについて中間Aとして、経済的結びつきによる国家群と日本との貿易の2つの小問を、地球的課題について中間Bとして、エネルギー問題、人口問題を考える上で考慮すべき人口数と年齢構成の地域別推移、食料廃棄問題、地球的課題の解決策の一つである先進国による支援（ODA）の4つの小問で構成している。統計や主題図をはじめとしたデータの読み取りと分析から、地理的事象や課題、さらにその解決策について考察させる内容を小問中に含めている。大問全体の平均得点率は標準的で、各小問の正答率をみると、問3で高く、問6でやや高いという結果となった。一方で、問2、問5は低かった。

第5問 学習指導要領「地理A」における「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」の、「ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。国土の周辺部に位置し、かつては北前船の寄港地として栄えたが、現在は地域問題を抱える地方都市・浜田市とその周辺を対象地域とし、地理的思考・技能を多面的に測る問題として作成した。問1は地図から位置と標高を読み取り冬季の気候状況を考える問題、問2は目的による生活行動パターンの空間的差異を地図から読み解く問題、問3は施設立地と人口分布から地区ごとの利便性を考える問題とした。問4は大スケールの地図と写真を用いて地域の特徴を読み解く問題、問5は歴史資料から全国スケールにおける過去の物流の特徴を考える問題、問6は過疎問題の発生要因と対策を踏まえて地域で行われている具体的な事業を選ばせる問題とした。問1と問3の正答率が低く、問4と問6の正答率が高かったが、大問全体では適切な正答率であり地域差はみられず、識別度にも問題はなかった。また、「地理B」との共通問題であるが、識別度に違いはなかった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問 本問は、地図やGISと地形や気候に関する知識を基に、日本の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価を受けた。問1は「地理A」で火山地形がほぼ扱われておらず、やや難しいとの指摘を受けた。問2はGISを用いた分析方法について、ベースマップと重ね合わせる統計情報から適切に読み取れる事項について判断する良問と評価された。問3は自然環境と人間生活との関連を問う地理の典型として良問と評価された。問4は自然環境の違いを踏まえ緑被率とその季節変化を考察する良問と評価された。問5は気象衛星画像と説明文から気象の知識を基に予想される災害と対策を考察する良問と評価された。問6は同じ地域の2種類のハザードマップを読み取り、津波や洪水に関する知識を基に避難行動や避難場所の安全性について判断する問題であると評価された。全体としては、受験者にとって初見である指標や図の表現に関する指摘もあったが、出題形態や難易度のバランスはとれていたと考える。

第2問 家畜を切り口に自然環境や歴史、宗教との関連性から衣食住を問う「世界の生活・文化」に相応しい大問であり、地図や資料の読み取りから得た情報を基に、各地域の特色を地理的な見方や考え方を働かせて探究的に考察する問題であると評価された。問1は自然環境や文化的差異から羊や豚の分布について考察する良問と評価された。問2は世界の気候分布と関連させた生活について考察する点が評価された。問3は生産、消費と関わる飼育頭数の変化とその要

因について考察する良問と評価された。問4は各国の経済状況や宗教と食生活の変化を関わらせて考察する良問と評価された。問5は伝統的住居から人々の生活と自然環境の関係性を考察する問題、問6は宗教、環境問題、景観と人々の生活の関係性を考察する探究的な問題であると評価された。地図を用いた問いがやや少なく、易問が多い傾向が指摘されたので、地理的思考力を問う出題を更に検討していきたい。

第3問 地図の読み取りや各種データを使った図表の判別など、基本的な知識・技能を問う設問によって構成されており、全体としては標準的な難易度であると評価された。問1は細かい知識が必要であるため、難易度が高いと評価された。問2は気候に関する説明から解答に至ることはできるものの、やや難問であると評価された。問3は写真と言語の読み取りから判定できる問題であり、標準的であると評価された。問4は産業の高度化の状況から地域を判定できる問題であり、標準的であると評価された。問5は図形表現図の読み取りだけでなく、知識を基に3か国の人口と都市人口割合を判定できる問題であり、やや難しいが良問と評価された。問6は図の読み取りから発展途上国における携帯電話の急速な普及を問う問題であり、やや易しいが良問と評価された。今後も受験者のレベルにも考慮しつつ、学習内容に基づいた基礎的知識、図の読み取りや思考力をバランスよく組み合わせた問題を作成していきたい。

第4問 受験者に馴染みのない資料もあるが、問われている内容は、基本的な知識・技能をもとに、地理的な見方や考え方を働かせる問題であり、良問が多いと評価された。問1は世界の国家群に関する基本的な知識をもとに判断でき、難易度は標準と評価された。問2は各地域の産業、経済規模とその割合の変化について、シンプルな問題でありながら空間軸と時間軸の両面から思考させる良問と評価された。問3は電源別の発電量が具体的に表されている資料で、需要量の波という側面などから発電を考える好資料であると評価された。問4は人口問題を大観するのに適切な問題と評価された。問5は食品の各段階における廃棄量の割合を地域別に示した図を読み取り、地域の経済水準や食品の特性を基に考察する工夫された良問と評価された。問6は地球的課題に関するパートのまとめの位置づけの小問として、解決策の構想を問う問題を求むと指摘された。引き続き知識・技能を前提としつつ、思考力・判断力を問える作問を検討したい。

第5問 自然環境と土地利用、他地域との結びつきや歴史的背景をテーマとした探究的な学習過程により構成されており、難易度・分量は標準的で解答時間も適切と評価された。問1は各都市の気候の特徴を捉えていれば難易度はやや易と評価された。問2は図を読み取り思考・判断するもので、共通テスト移行後の特色が表れた良問と評価された。問3は解答には時間を要し難易度はやや高いが、地理的な見方や考え方を問う工夫された良問と評価された。問4は地形図の読み取り問題と評価されたが、基本用語を理解していれば正誤の判断ができるため工夫が必要と指摘された。問5は歴史的背景を踏まえた地理的事象に関するもので、難易度は標準的だが工夫されていると評価された。問6は地域の課題解決を志向する学びの姿勢が示されているが、構成上易問になりやすいと指摘された。スケールを変えながら地域の魅力や課題を発見し、一般化していくプロセスに沿った作問を今後も目指したい。

4 ま と め

(1) 「地理A」の学習範囲として適切であり、高等学校での学習を通して身に付けた地理的スキルや見方や考え方をを用いて考察するものが多く、バランスについてもおおむね適切と評価された。いわゆる「場面設定」の問題では、実際の学習過程に沿った場面設定がなされていると評価された。来年度開始となる「地理総合」への接続について、おおむね評価されたと考えられ

る。防災や地球的課題といった「地理総合」でも共通で扱う内容については、探究プロセスを意識した設問の構成や授業への示唆に富むような問題の作成についても要請された。教科書の内容に基づき、知識・技能と思考力・判断力の両面について、各大問及び設問で総合的かつ適切に問えるよう、今後の問題作成でも引き続き検討を続けていきたい。

- (2) 難易度については、平均点は55.75点で昨年度とほぼ同じであり、「世界史A」や「日本史A」と比較すると13点程度高かった。分量や時間配分、出題形式などについては、易問から難問までバランスよく配置され、昨年度よりも改善が図られたと評価された。一方、組合せ問題の精選が指摘されるとともに、次年度以降、今回と同程度の分量とするよう要請された。図表読み取りやリード文のバランスを含めて引き続き慎重に検討し、適切な難易度を保てるよう十分留意したい。
- (3) 地図・主題図や資料の活用については、全体としては適切と評価された。一方で、分量の多さや、一部で図の判読に難がある問題もあったと指摘された。地図（地理院地図を含む）・図・写真を活用した出題は、読み取りのしやすさや表現方法等へ留意し、今後も適切に問える方法を検討していきたい。
- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題であると評価された。次年度から始まる、「地理総合」でも参考になるような地理的な技能や思考力・判断力を養うことを目指した問題作成を継続していきたい。

地 理 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「ア 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境と自然災害に関する諸事象を取り上げ，各種地形の特徴や分布，気候・気象と関連した現象・自然災害の季節的・地理的变化について考察させることを目的とした。問1は異なる地体構造に位置する2つの島国について，国土の地形的特徴と土地利用の違いを思考できるかを，問2は北半球の陸域における永久凍土，氷河・氷床の分布の特徴とその要因を思考できるかを，問3は海岸線の形状から海岸地形の形成要因を考察する力を，問4は世界の幾つかの都市の日照時間を，緯度や気候の違いから思考できるかを，問5は南北アメリカ諸国における洪水災害の多発時期を，各国の気候的特徴から思考できるかを，問6は日本国内の記録的気象観測値の発現分布の特徴を思考できるかを問うた。大問の平均得点率は，「地理B」全体の平均をやや下回った。

第2問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「イ 資源，産業」に関する大問である。場面設定型として，鉄鋼業を中心とした世界と日本の資源と産業の変化を取り上げ，実態と変化，及び将来起こりうる課題と解決策を展開した。問1は鉄鋼業を探究するきっかけとしての，鉄鉱石の産出量，輸出量，輸入量の世界的動向に関して，問2は原料の輸入割合が高まる中で，日本における製鉄所の立地の変化に関して，問3は製鉄に必要な石炭の輸入に着目し，輸入相手国の変化とそれらの国々における石炭の生産や消費の特徴に関して，問4は鉄鋼業をはじめとした製造業が発展を続けるために必要な，付加価値に関して，問5は製造業を中心とした第2次産業から第3次産業への産業構造の変化が進む中，工場が大規模商業施設に用途転換する事例，問6は鉄鋼業などの製造業が盛んな地域における，新しい取組に関して問うた。大問全体の得点率は高く，易な問題となった。

第3問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」の「ウ 人口，都市・村落」，「エ 生活文化，民族・宗教」に関する大問である。都市を様々な視点から捉えることをねらいとし，さらに都市における生活文化を問う内容とした。問1と問2は日本の都市圏の問題で，都市圏構造と都市圏内のつながりを問うた。いずれも都市圏の規模と中心と郊外の特徴を把握していれば正答に導ける問題である。問3と問4は世界の都市圏に関して問うた。問3はグローバルな視点から経済成長と都市圏の成長との関係と課題を，問4は国家制度や経済成長の度合いから，国内都市圏の規模別分布を問うた。問5は都市問題に関する内容で，経済発展の度合いが異なる二国の都市圏の貧困地域の分布，その形成要因の相違を問うた。問6はマイノリティの割合が高い都市圏の中心市における生活文化の特色を問うた。問5と問6も，都市圏中心部と周辺部の違いから正答を導ける問題である。大問全体の難易度はやや易であっ

た。

第4問 学習指導要領「地理B」の「(3)現代世界の地誌的考察」における「イ 現代世界の諸地域」に関する大問である。環太平洋地域、すなわち太平洋を取り巻く国々という特徴に着目して、比較地誌や系統地理の視点から共通性や差異性、そしてその背景について考察する能力を問うた。問1は太平洋の海底地形、問2は環太平洋地域の多様な気候帯と伝統的な衣服、問3は環太平洋諸国の食文化、問4は太平洋の島嶼観光、問5は貿易にみる環太平洋諸国の関係、問6は環太平洋のグローバル化における日本企業の立ち位置を問うた。「(2)現代世界の系統地理的考察」で学習した成果を活用しながら、環太平洋という地域の多様性と関係性を理解し、今後の日本の立ち位置も想起させることをねらいとした。大問全体は、おおむね標準的であった。

第5問 学習指導要領「地理B」における「(1)様々な地図と地理的技能」の、「イ 地図の活用と地域調査」に関する大問である。国土の周辺部に位置しかつては北前船の寄港地として栄えたが、現在は地域問題を抱える地方都市・浜田市とその周辺を対象地域とし、地理的思考・技能を多面的に測る問題として作成した。問1は地図から位置と標高を読み取り冬季の気候状況を考える問題、問2は目的による生活行動パターンの空間的差異を地図から読み解く問題、問3は施設立地と人口分布から地区ごとの利便性を考える問題、問4は大スケールの地図と写真を用いて地域の特徴を読み解く問題、問5は歴史資料から全国スケールにおける過去の物流の特徴を考える問題、問6は過疎問題の発生要因と対策を踏まえて地域で行われている具体的な事業を選ばせる問題とした。問1の正答率が低く、問4と問6の正答率が高かったが、大問全体では適切な正答率であり地域差はみられず、識別度にも問題はなかった。また、「地理A」との共通問題であるが、識別度に違いはなかった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問 自然環境や自然災害に関する諸事象について、多様な図表を用いて思考力と判断力を問う標準的な構成と評価された。問1は共通テストらしい組合せ問題の良問と評価されたが、初問としてはミクロな視点の問いではないかと指摘された。問2は大気大循環の理解をベースとした標準的な問と評価された。問3は海岸地形の基礎的な知識問題であったが、受験者の学習知識が直接得点に反映される問と評価された。問4は緯度と気候の2つの観点を組み合わせた思考を要する点で評価されたが、都市の位置を示した地図がないこと、さらに受験者が日照時間を学習することがないことから難易度が高いと指摘された。問5は緯度と気候条件の違いを組み合わせて各国の洪水災害の要因を推測させる問いであり、防災を意識した良問と評価された。問6は国内の気象指標の最大記録をもたらず地理的要因を思考させる仕上がった問と評価されたが、受験者には初見の図であり、やや難易度が高いと指摘された。全体としては基本的な事項を問う標準的な大問であり、取り組みやすいものと評価された。地形や気候と人間生活との関わりを災害関連以外でも触れてほしいことが要望されており、今後の検討課題としたい。

第2問 資源と産業の変化をテーマに、生徒が様々な資料を用いて探究する場面設定であり、世界や日本における現状や近年の変化、それに対する取組などについて学びを深めていくプロセスが示され、適切であると評価された。問1は基礎的・基本的な易問だが、学習者が得点を実感できたという面を評価された。問2は単なる分布図の読み取りではなく、読み取れる事象に関する知識を基に判断する必要があると評価された。問3は幾つかの国から日本への石炭輸入量の推移について、人口規模や経済成長の記述を踏まえて考察する良問と評価された。問4は各国の産業構造やその変遷に関する地理的な見方や考え方を働かせ考察する良問と評価され

た。問5は示された写真からは読み取ることが困難な選択肢もみられるため、リード文での問い方や選択肢の表現に工夫が必要と指摘された。問6は資源や産業に関する新しい取組を組み合わせる易問で、平均点の上昇に貢献したと指摘された。全体的に、日本に関する問題が多くみられたため、世界全体を対象とした問題、また世界の国や地域に焦点を当てた問題作成も検討したい。加えて、特定の分野に偏らない問題作成も検討したい。

第3問 大問全体について、これまで取り上げられることが少なかった「生活文化」が大問リード文に含まれたと評価された。問1は出だしの問題として、都市構造の理解を大局的に問う問を設定しての出題であったが、易問と評価された。問2は都市規模や郊外か中心かという位置から、思考的に解かせる良問と評価された。問3は都市圏人口の変化を示す散布図の読み取りとインフォーマルセクターと小売業・サービス業との関係を読み取ることに時間を要すると指摘された。問4は都市圏の定義は国による差が大きいので説明が必要と指摘されたが、都市(行政市)に関する定義に関しても同じことがいえるので、都市統計を扱ううえでの課題が残された。問5は図を活かすためには正誤文の内容に一工夫が必要であると指摘された。問6は良問と評価されつつもやや知識を要する問題であると指摘された。今後の指針として、「人口、都市・村落」と「生活文化、民族・宗教」の内容に関する問題をバランスよく作問していきたい。

第4問 地誌として環太平洋地域を取り上げた新しい形式であり、各小問に掲載された主題図、統計、グラフの多様な資料を基に、基礎的知識と資料を正しく読み取る思考力や判断力を測る問題と評価された。問1は環太平洋の海底地形をプレートテクトニクスの知識を基に思考力を試す問題と評価されたが、難易度は高いと指摘された。問2は生活文化や自然環境を思考・判断させる問と評価された。問3は一人一日当たりのたんぱく質供給量を基に身近な食文化を考察する良問と評価された。問4は島嶼国・地域の観光客数の資料を基に地理的接近性や相互関係に着目することで国家・地域間のつながりを考えることのできる良問と評価された。問5は貿易相手国への輸出額の資料を基に、環太平洋の国同士の経済的な結びつきの変化を考察する良問と評価されたが、受験者にとっては初出の図であったため、難易度が増した。問6は日本企業の環太平洋諸国への進出を対象とした問いであったが、地図の読み取りとは関係なく解答ができたこともあり、容易と評価された。全体では、環太平洋という広大な範囲を扱ったため、系統地理的な内容も多く、地誌で求められる地域を動的に扱うまでには至っていないと評価された。今後は、これらの点を踏まえた作問に努めたい。

第5問 自然環境と土地利用、他地域との結びつきや歴史的背景をテーマとした探究的な学習過程により構成されており、難易度・分量は標準的で解答時間も適切という評価を得た。問1は各都市の気候の特徴を捉えていれば難易度はやや易と評価された。問2は図を読み取り思考・判断するもので、共通テスト移行後の特色が表れた良問と評価された。問3は解答には時間を要し難易度はやや高いが、地理的な見方や考え方を問う工夫された良問と評価された。問4は地形図の読み取り問題と評価されたが、基本用語を理解していれば正誤の判断ができるため工夫が必要という指摘があった。問5は歴史的背景を踏まえた地理的事象に関するもので、難易度は標準的だが工夫されていると評価された。問6は地域の課題解決を志向する学びの姿勢が示されているが、構成上易問になりやすいと指摘された。地域に関する様々なテーマに基づく主題図を用い、対象地域の特徴を丁寧に読み解き理解していくプロセスに沿った作問を今後も目指したい。

4 ま と め

- (1) 「地理B」の学習指導要領の目標と内容に沿っており、学習指導要領を踏まえた各分野・

領域から出題されているとされた。また、「地理B」の知識・技能の定着を前提にしつつ思考力、判断力を発揮して解くための多様な問題構成となっていると評価された。場面設定型の大問や地域調査を中心に、実際の学習過程が意識され、日常生活での社会的課題解決の構想がみられると評価された。一方で、解答時間への配慮や、資料点数の精選について継続的な改善が要望された。また、一部の大問に出題分野の偏りがみられると指摘された。これらの課題への対応も図りつつ、地理的な見方や考え方を働かせて解答に到達できるような問題作成を引き続き検討していきたい。

- (2) 難易度については平均点が 65.74 点と昨年度から 5.28 点高く、「世界史B」「日本史B」よりも高い点数となった。難易度に関して、例年指摘されてきた、学習量に比べて高得点を取りにくい状況は改善されたと考える。一方で、全体に標準から易とされた設問が多く、一部に正答率のかなり高い設問があったことも指摘された。「世界史B」「日本史B」とのバランスに配慮しつつ、引き続き適切な難易度の問題作成を検討していきたい。
- (3) 多様な資料を活用しつつも、図表類についてはおおむね適切に使用されていると評価された。一方で写真類の解像度や濃淡への留意、全世界を扱う地図の積極的利用、様々な空間スケールを念頭においた作問などの要望も寄せられた。難易度との関係では、一部に図を用いずとも解ける問題がある点について懸念があった。これらの課題については今後も継続して検討を重ねていく必要がある。
- (4) 出題のバランスについては、一部の大問に題材の偏りがみられたものの、全体として分野のバランスが保たれ、高等学校の学習事項に基づいて構成されているとされた。ただし、組合せ形式の問題が多いなど、出題形式が単調にならないよう要望が寄せられた。現代社会への関心を持てるようなテーマ設定による問題作成を含めて、引き続き十分検討していきたい。
- (5) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿っており、問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿った設問が多いと評価された。高等学校の教科書で学ぶレベルを前提とし、社会生活や現代社会への興味関心、地域課題の解決につなげる力を測れるような問題作成への要望も寄せられた。「地理総合」「地理探究」に向けて、高等学校で扱う内容の知識・技能を踏まえた地理的な思考力・判断力を多面的かつ多角的に問うとともに、学校教育での目標になるような問題作成に取り組んでいきたい。